

都道府県名	青森県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	黒石市立黒石小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	2	2	1	12	18
児童数	57	46	49	34	59	51	2	298	

研究の概要

1. 研究主題

考える楽しさ、求めるよろこびのある授業づくり
------------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年2組・特殊学級・2年1組・2年2組	国 語
3年1組・5年1組・5年2組・6年2組	
1年1組・3年2組・4年1組・6年1組	算 数
4年～6年	理 科

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「考える楽しさ、求めるよろこびのある授業づくり」</p> <p>研究の見通し 研究目標 「一人一人の子どもが、学ぶ力を身につけ、考えることを楽しみ、求めるよろこびを感じるような学習指導のあり方を、日常の授業実践を通して明らかにする。」 「各教科で目標とする具体的な子どもの姿を明らかにして研究に取り組む。」</p> <p>研究仮説 「教師主導による従来の問題解決型の授業からの脱却を図り、子ども主体の授業を目指すことを基本に、次の研究視点に沿って実践研究するならば、主題に迫ることができるだろう。」 (1) 問題場面の設定を工夫することにより、子どもが主体的に動き出す授業にする。 (2) 子どもの何気ない言動にも留意しながら、子どもの思考に沿って授業を進めることにより、主体的に考える授業にする。 (3) 学び合いの場を設定し、子どもどうしの磨き合いができるような支援のしかたを研究することにより、追究することを楽しむ授業にする。</p> <p>研究の方向性(年次計画にかえて) 自分の考えを素直に表現し、お互いに認め合える授業づくり つぶやく。うなずく。 「わからない」内容を自分の言葉で言う。 「あれっ？」を共有している。 自分の意志でやってみたいことがあり、実際にやっている。 「例えば」「だって」「だったら」など、語りかけの言葉がある。 「わかった！」を共有している。 など</p> <p>子どもの考えを深める発問を工夫した授業づくり</p>
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

簡潔・明瞭に表現する。(短ければ短い程良い)  
計画的な発問を中心とする。(活動 A の場合、活動 B の場合 …)  
段階的に用意する。  
考えるよりどころを含んでいる。 など

子どもどうしの磨き合いがある授業づくり  
わからない内容を自分の言葉で言う。  
自分でわかったことを伝えることができる。  
いろいろな考えがあることを知る。  
友だちのよさを認めて喜んでいる。  
友達の見解に反論する。  
共同的な思考をする。(A、B さんの考え方をみんなに投げ返して)  
友達の見解に反論する。  
何がいいのか納得しながら授業が進む。  
つぶやく。  
反対賛成の立場をとっている。 など

#### 研究の内容・方法

研究内容は個人ごとに示すものとする。設定に当たっては、児童の実態を見つめ直し、研究主題との関わりが明確で、日常的に授業の中で実践・評価できるような具体的な内容とする。したがって、子どもの変容に伴って研究内容も変わっていく。また、研修経過においても自己の取り組みを評価し、一層の成果を得るために、その内容を記録していくこととする。  
さらに、個人の研究内容をもとに教科としての取り組みをまとめ、研究主題に示したような子ども像に迫っていきたい。研究方法は下記の通りである。

#### (1) 研究主題に関わる研究

##### 個人研究

ア 教師それぞれが個人毎に国算社理の 4 教科内で研究教科及び研究内容を決め日常的な授業実践を通して主題に関わる研究をし、めざす子ども像に近づく。

イ 全学級、授業を公開する。

ウ 年間の取り組み内容を計画し、実践、評価、修正を繰り返し、記録する。

##### ブロック研究

ア 同じ教科を研究するものが集まり、お互いが提案授業その他で研究の経過や結果を公開し合い、その事前・事後研究を活発にすることにより、主題に近づく方法を明らかにしていく。

イ 指導案、提案授業に必要な事項は、授業者を主体としながら、ブロックで協力して取り組む。

ウ 研究協議事項は記録用紙に記入し、授業者に提出する。

エ 研究授業の指導案検討会には、校長、教頭及び学団メンバーも参加する。研修部からも必要に応じて参加する。

##### 全体研究

ア 他部会の研究にも参加することにより、その成果を得るとともに、主題に迫るにはどうあればいいのかを明確にし、共通理解を図っていく。そのため、全学級の授業を参観し、研究会にも参加する。

イ 全体へ提案する研究授業は、原則として下学年は、水曜日の午前、上学年は 5 校時に設定する。

ウ 授業研究会は、ブロックの中から司会者・記録者を決める。問題点を整理しながら、充実した研究協議を進める。

エ 授業者全員が、研究の経過や成果などを整理し、紀要にまとめる。

#### (2) 現職教育に関わる研修

児童の実態や教師が苦手とする分野を考慮に入れて研修する。必要に応じて、自ら学ぼうとする気持ちを大事にし、適時講習の機会を設ける。

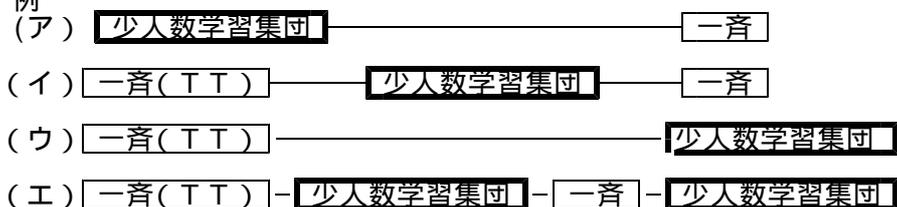
#### (3) 少人数学習集団に関わる研修

以下の 5 つのことを柱にして、少人数学習などの個に応じた指導による学力向上についての研究を進めるものとする。

少人数学習集団で指導することが効果的な単元か。

- ・少人数学習集団による指導を有効に生かす年間指導計画の作成  
研究主題に関わる教科の年間指導計画に合わせて

単元のどの場面で少人数集団による指導を取り入れることが有効か。  
例



どのような少人数学習集団を編成することが有効か。

- 例
- (ア) 習熟度別
- ・理解や定着の度合いに応じて
  - ・学習の速さに応じて
  - ・学習の仕方に応じて
  - ・考え方の活用の仕方に応じて
  - ・意欲と自信に配慮して
  - ・表現方法に応じて
- など
- (イ) 興味・関心別
- (ウ) 均等分割

それぞれの学習集団の実態に即した指導方法にどのようなものがあるか。

- ・単元の大まかな計画（指導者の話し合い）
- ・情報交換（その日の授業の反省、児童の様子）
- ・次時の授業計画・準備

個々の実態把握をどのように行い、それを次の指導にどう生かしていくか。

- ・現在の学力の実態、個に応じた指導に対する児童のアンケート調査
- ・日々の個別指導表の活用
- ・15年度の学力を比較

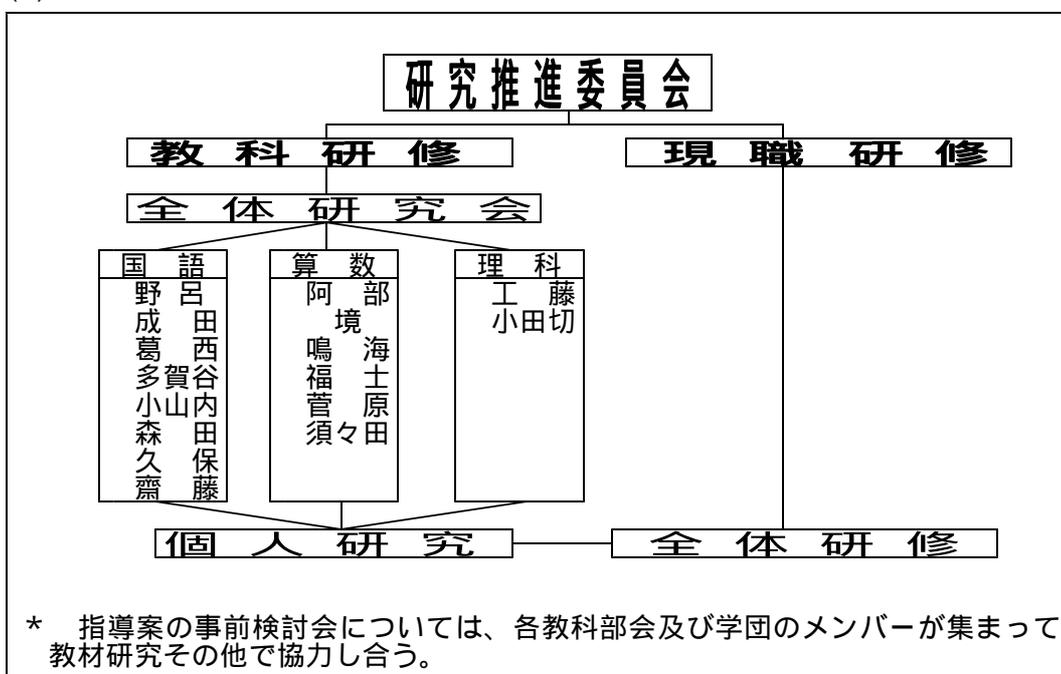
上記の事柄について、実践の足跡を残す。  
個に応じた指導の対象となる教科を研究教科としている人は、研究内容の中に個に応じた指導方法についても触れ、「確かな学力」を身につけさせるための方策についても研究する。  
研究方法は、研究主題に関わる研究方法に準ずる。

平成 16 年度	<p>テーマ 「考える楽しさ、求めるよろこびのある授業づくり」</p> <p>研究の見通し 研究目標 「一人一人の子どもが、確かな学力を身につけ、考えることを楽しみ、求めるよろこびを感じるような学習指導のあり方を、日常の授業実践を通して明らかにする。」 「学習の基盤となる基礎学力としての、音読できる力、速く正しく計算できる力、正しく漢字を書く力をドリルタイムで培うための方法を明らかにする。」</p> <p>研究仮説及び研究の方向性 15年度の反省に基づいて設定する。</p> <p>研究の内容・方法 研究内容は個人毎に示すものとする。研究主題との関わりが明確で、具体的な内容とし、日常的に実践・評価していく。</p>
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

方法は、下記の通りである。

- (1) 研究主題に関わる研究  
個人研究を主としながらも、教科ブロック研究、全体研究等様々な組織で研究を進める。  
研究教科及びドリルタイムの場での「確かな学力」定着に関わる研究をする。  
年間の取り組み内容を計画し、実践・評価・修正を繰り返し、研究の成果をまとめる。  
少人数学習集団による授業については、以下のことについての研究をする。  
少人数学習集団で指導することが効果的な単元及び領域  
1単元の中で、少人数学習集団での指導が効果的な場面  
習熟度別学習の各学習集団の実態に適した指導方法 など
- (2) 現職教育に関わる研究  
確かな学力の定着につながるような実技研修等の講習会を開く。  
教師が苦手とする分野について、適時講習の機会を設ける。

### (3) 研究推進体制



### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

- (1) 研究計画に基づいた反省結果から見た成果 (別紙1)  
研究目標に沿って評価の観点を設定し、各教科部会毎に求める子どもの姿を具体化した。それにより、授業計画が立てやすく、各自の研究のねらいが明確になった。  
全員授業により、学年の発達段階やその学年で身につけておかなければならない学習の構えが見えた。  
少人数学習集団では、以下のような成果があった。  
・児童のアンケートによって情意面での実態把握、変容、成果及び課題が把握できた。  
・下位の子が伸びた。  
・クラスの中では発言できない子も、少人数では発言できるようになった。  
・少人数での学習が好きだと答えた子が増えている。
- (2) 児童アンケート (生活自己診断を含む) 集計結果から見た成果 (別紙2)

学校・先生・友達に関わる質問結果では、全体的には交友関係においても師弟関係においても概ねよい結果と見ていい。  
授業に関わる質問結果でも、学ぶことが好きで、学んだことが分かるかと答えている子が多い。

## 2. 今後の課題

- (1) 研究計画に基づいた反省結果から見た課題(別紙1)  
研究目標に沿って設定した観点は、現状では教科間のバランスが整えられていない。「確かな学力」の3つの観点で子どもの姿を具体化した方が捉えやすいし、教科間のバランスも整えられる。  
「確かな学力」としての「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」の意味について、整理統合する必要がある。  
研究仮説と各自の研究内容はもっと連動していなければならない。仮説から離れた内容もある。  
「確かな学力」についての評価方法を教科毎及び全体として確認しなければならない。  
少人数学習集団では、以下のような課題がある。  
・中位の子をさらに伸ばす方法がよく分からない。  
・学力の向上が、少人数集団によるものか、教具や指導方法によるものかははっきりしない。研究目標・研究仮説、研究内容を連動させて、児童の変容を評価する方法を研究することが必要である。
- (2) 児童アンケート(生活自己診断を含む)集計結果から見た課題(別紙2)  
各質問項目には、少数ではあっても否定的な解答を示している子がいる。その子どもたちを引き上げるための方策を考えていく必要がある。

## 学力等把握のための学校としての取組

- (1) 単元テストの実施及び分析(金ROM 採点王Light活用)  
目的 各学年の単元ごとの基礎的・基本的内容の到達状況を的確に把握し、「確かな学力」の定着に活用する。  
内容 国語・算数・理科・社会について実施したテストをコンピュータ処理する。  
児童一人一人及び学級集団としての各観点ごとの実現状況を把握し、学習の習得や進歩について診断し、補充指導に努める。  
教師の指導計画、指導方法の反省材料とし、今後に生かす。  
時期 各単元の終了時
- (2) 学力テストの実施及び分析(教研式標準学力検査CRT)  
目的 学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容の到達状況を的確に把握し、「確かな学力」の定着に活用する。  
内容 国語・社会・算数・理科の既習事項についてテストを実施する。  
コンピュータ処理で出力されたデータをもとに一人一人の児童の観点ごとの実現状況を把握し、学習の習得や進歩について診断し、補充指導に努める。  
教師の指導計画の反省材料として必要な補充指導を行ったり、今後の指導計画の改善に利用したりする。  
時期 平成16年2月3日、4日

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年度 中南管内小・中学校校長研究協議会  
日時 平成15年7月10日(木)  
場所 西目屋村中央公民館  
対象 中南教育事務所管内小・中学校の全校長  
目的 学習指導要領の全面実施にともない、学校においては、ゆとりの中で特色ある教育を展開し、「生きる力」を育む教育が求められている。そこで、分科会において国及び県でも学校教育の重要課題として位置づけている「確かな学力」の育成について、各学校ではどのように取り組ん

でいるのかを協議する。

H P の作成

研修計画やこれまでの取り組み、反省、成果などを掲載している。

校内研修部だよりの発行

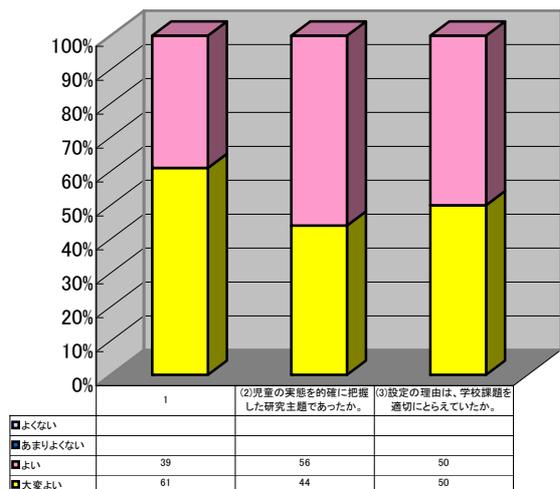
校外の学力向上フロンティアに関わる協議会内容を記載し、職員全体でその成果の普及に努める。

学力向上についての取り組み・成果・課題について、学期毎に全教師がまとめたものを全体に配布する。それにより、互いに見合い、自分の研究に生かせるようにする。

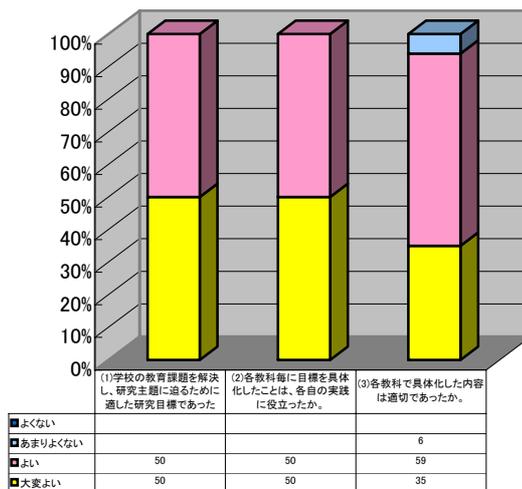
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無

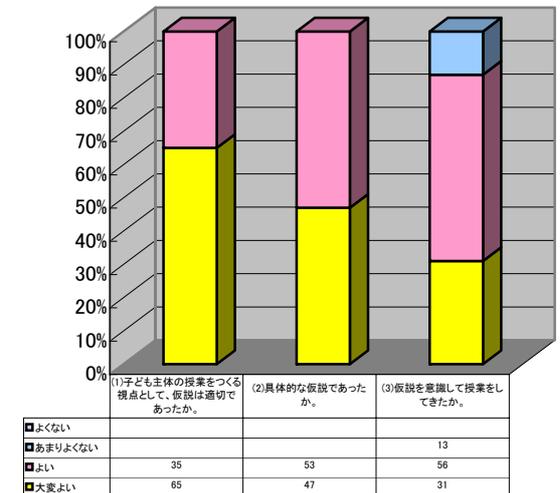
### 1 研究主題



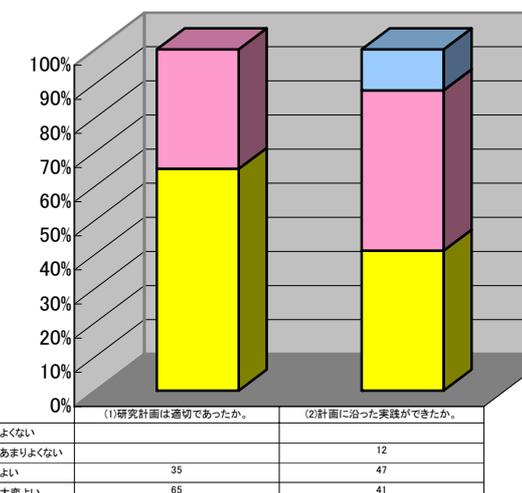
### 2 研究目標



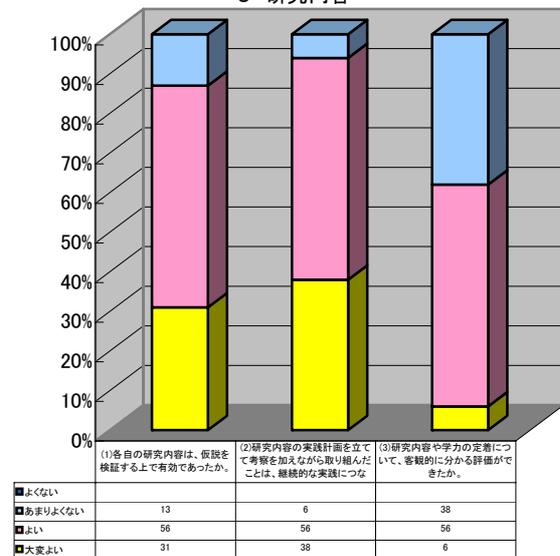
### 3 研究仮説



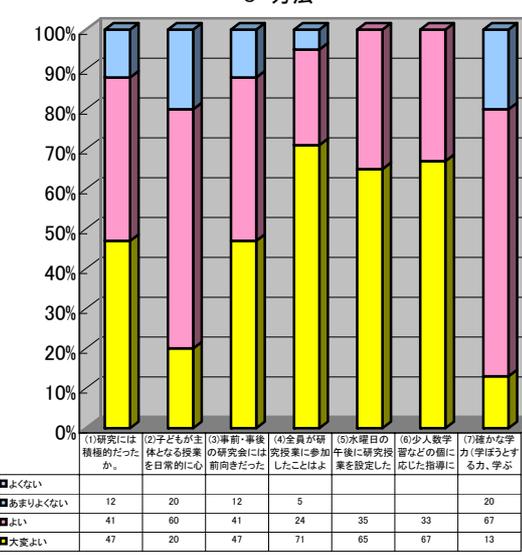
### 4 研究計画



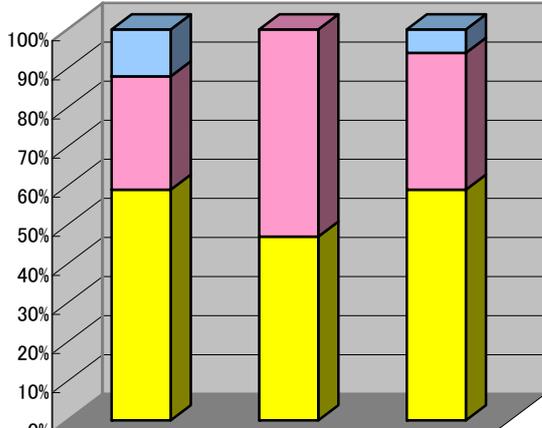
### 5 研究内容



### 6 方法

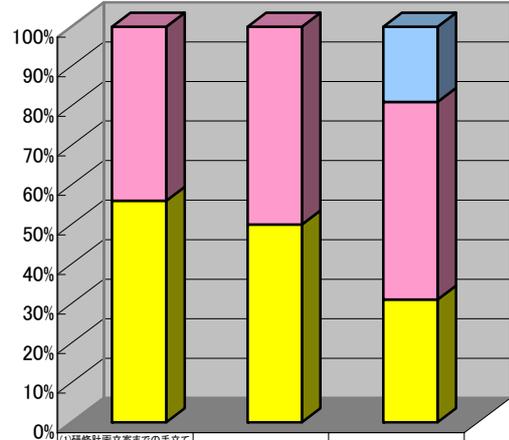


### 7 研究の組織や体制



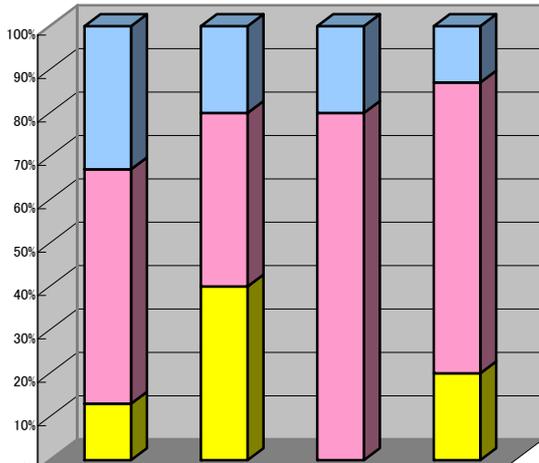
評価	(1)部会の組織はうまく機能したか。	(2)各部会間や部会内・学年間の協力・連携はうまく進められたか。	(3)それぞれの立場で、協力・分担して研修が進められたか。
よくない	0	0	6
あまりよくない	12	0	0
よい	29	53	35
大変よい	59	47	59

### 8 研究日程



評価	(1)研修計画立案までの手立て(方法・討議)は適切であったか。	(2)先を見通した研修計画であったか。	(3)計画に無理はなかったか。
よくない	0	0	19
あまりよくない	0	0	0
よい	44	50	50
大変よい	56	50	31

### 9 児童の変容



評価	(1)主体的に学習に取り組みようになったか。	(2)学ぼうとする力(関心・欲求度)はついたか。	(3)学ぶ力(課題解決能力)はついたか。	(4)学んだ力(技能・表現・知識理解)はついたか。
よくない	0	0	0	13
あまりよくない	33	20	20	0
よい	54	40	80	67
大変よい	13	40	0	20

# 校内研修の反省

4:大変よい 3:よい 2:あまりよくない 1:よくない

数値は%を表す

観点	項目	4	3	2	1
研究主題	1 (1)学校の教育課題①～⑥に即した研究主題であったか。	61	39		
	(2)児童の実態を的確に把握した研究主題であったか。	44	56		
	(3)設定の理由は、学校課題を適切にとらえていたか。	50	50		
研究目標	2 (1)学校の教育課題を解決し、研究主題に迫るために適した研究目標であったか。	50	50		
	(2)各教科毎に目標を具体化したことは、各自の実践に役立ったか。	50	50		
	(3)各教科で具体化した内容は適切であったか。	35	59	6	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会で細部について相談したつもりでも、授業後の協議を聞くと他教科部会から見えにくいところが多いと感じた。(多賀谷)</li> <li>・もっとわかりやすいものにしていく必要がある。(多賀谷)</li> <li>・国語での学ぶ力、考えることを楽しむなど、曖昧であった点が、部会で話し合うことによって明確となった。(齋藤)</li> <li>・役立っている。(齋藤)</li> <li>・学力向上に関わる目標も必要だった。(須々田)</li> <li>・「学ぶ力」を全体で定義づけてから研究を進めるべきだった。(須々田)</li> <li>・研究教科以外についても学団で話し合うことができたので、ある程度自分にも取り入れることができた。(小山内)</li> <li>・(2)は各自の実践と連動したのか不明である。(校長)</li> </ul>				
研究仮説	3 (1)子ども主体の授業をつくる視点として、仮説は適切であったか。	65	35		
	(2)具体的な仮説であったか。	47	53		
	(3)仮説を意識して授業をしてきたか。	31	56	13	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業を進めていくうちに目先のことにとらわれて忘れがちになることが多かった。(多賀谷)</li> <li>・学び合いの場、磨き合いという点では、もう少し意識すべきであった。(齋藤)</li> <li>・掲げた仮説を常に意識して進めてはいなかった。(久保)</li> <li>・仮説を意識した協議会になっていなかった。(須々田)</li> <li>・テーマや仮説は常に頭にある。しかし、自分の授業や子どもの実態はまだまだで、反省の日々であった。(森田)</li> <li>・単元によって仮説を意識できないこともあった。(工藤)</li> <li>・提案授業を見た限りでは、十分ではなかったと思う。ただ、日々の授業でこそこのことが重要になる。それは先生方のことだから、しっかりやってくれていると思っている。(教頭)</li> </ul>				
研究計画	4 (1)研究計画は適切であったか。	65	35		
	(2)計画に沿った実践ができたか。	41	47	12	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数には適切は計画だが、国語にはどうだろう。(須々田)</li> <li>・計画の中に学習問題作りも入れたらどうかと思う。(工藤)</li> <li>・初めに計画を立てるのは大変だったし、苦しかったけれど、それにより授業を振り返ることができたと、次に生かす手立て等を持つことができたのでよかった。(小山内)</li> <li>・学期1つの大単元で計3つで充分だと思う。(小山内)</li> <li>途中、学力について考えることがあったし、どう評価するかも考えることができてよかった。(小山内)</li> </ul>				

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1単位時間、単元毎、教科毎につける学力を見据えて指導していこうという意識は高まった。(小山内)</li> <li>・評価のしかたをもっともって考えていかなければいけない。(小山内)</li> <li>・学校教育課題の①②③⑤⑥の5つが直接校内研にかかわっている。このことを考えると、課題解決に校内研は重要なポイントなので計画は適切だと思う。ただ、同時に、放課後を児童と過ごすこと、子どもにとって安心して触れ合える時間が必要だ。その時間を見出すため、他に削るものがないか等、校内の動き全体を見直す必要がある。(教頭)</li> </ul>			
研究 内 容	5 (1)各自の研究内容は、仮説を検証する上で有効であったか。	31	56	13
	(2)研究内容の実践計画を立てて考察を加えながら取り組んだことは、継続的な実践につながったか。	38	56	6
	(3)研究内容や学力の定着について、客観的に分かる評価ができたか。	6	56	38
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、単元毎あるいはその都度できるような評価を意識した授業づくりが必要だった。(多賀谷)</li> <li>・定期的に考察を行っていなかった点を反省している。(齋藤)</li> <li>・教科の研究内容というより、学級経営に関わるような内容もあったと思う。(森田)</li> <li>・書いたものにはチェックを入れ、ABCで評価していった。繰り返すことで書けない子も内容のあるものになってきた。(野呂)</li> <li>・評価の具体的で客観的な尺度を作りたい。(阿部)</li> <li>・評価を意識した授業を心がけたつもりだが、どこか何かずれているようで不安である。(小山内)</li> <li>・仮説におもい先行のケースもあり、日々の実践が難しいと思った。取り組みをまとめていったことから、数値化とは別の視点でよく評価されたと思う。(校長)</li> </ul>			
方 法	6 (1)研究には積極的だったか。	47	41	12
	(2)子どもが主体となる授業を日常的に心がけたか。	20	60	20
	(3)事前・事後の研究会には前向きだったか。	47	41	12
	(4)全員が研究授業に参加したことはよかったか。	71	24	5
	(5)水曜日の午後に研究授業を設定したことはよかったか。	65	35	
	(6)少人数学習などの個に応じた指導による学力向上への取り組みは成果が上がったか。	67	33	
	(7)確かな学力(学ぼうとする力、学ぶ力、学んだ力)に向上は見られたか。	13	67	20
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年の場合は、考える楽しさ・求める喜びを味わうための下地作りもとても大切だと思う。(多賀谷)</li> <li>・入学当初の児童の様子から比べると、大きく飛躍し、着実に力をつけている。(多賀谷)</li> <li>・全ての学年を見ることができ、今後の指導に役立つと思う。隣クラスとも比較できてよい。(齋藤)</li> <li>・日程的に大変な時期もあったが、日々授業に悩んでいる私には、一つ一つの授業がすごく勉強になっている。初任者の久保先生はじめ、若い先生方には参観する日数が多いほど学ぶことが多いと思う。(福士)</li> <li>・(6)は4年生は成果が見られている。(福士)</li> <li>・単元のまとめにワークシートを使って整理や定着を図ったが、学力の低い子どもの向上はあまり見られなかった。(工藤)</li> <li>・確かな学力は向上したと思うが、感じとしての範囲なので…。(校長)</li> <li>・若い先生方も一生懸命だが、なかなかベテランの先生についていけないだろう。研究会の前半1/3位は若い先生方からの意見コーナーにしたらどうだろう。(教頭)</li> <li>・少人数・習熟度は必要だが全てではない。まず、担任が学級の子どもの状況を把握し、それぞれを育てるには何がベストかという発想で、きめ細やかな指導を整理しなおす必要はないだろうか。(教頭)</li> </ul>			
研 究 の 組 織 や 体 制	7 (1)部会の組織はうまく機能したか。	59	29	12
	(2)各部会間や部会内・学年間の協力・連携はうまく進められたか。	47	53	
	(3)それぞれの立場で、協力・分担して研修が進められたか。	59	35	6
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討会での意見交換など、学年間の協力がよい。(齋藤)</li> <li>・どの先生も、悩んでいることを相談すると真剣に受け止め、一緒になって考えてくれる。(福士)</li> <li>・小集団では、学年間の連携が大切だと実感した。授業前の話し合いや授業後の反省をすることができた。(福士)</li> <li>・その教科を教えている人が二人以上いないと、部会での話し合いは難しい。(工藤)</li> <li>・本校の体制の中ではよく機能し、進められたと思う。(校長)</li> <li>・専科と養教なので、話し合いにならなかった。(小田切)</li> </ul>			

8 研究 日 程	(1)研修計画立案までの手立て(方法・討議)は適切であったか。	56	44		
	(2)先を見通した研修計画であったか。	50	50		
	(3)計画に無理はなかったか。	31	50	19	
	<p>・計画は厳しかったが、全員授業は意義のあることなので、このままでいいのかと思う。(鳴海)</p> <p>・行事などの都合で、後半にやや授業が集中した気がする。(多賀谷)</p> <p>・毎週毎週の授業研究は大変だが、全員が授業をするのはいいことであるし、しかたのないことだと思う。(成田)</p> <p>・校内研はよい。ただ、このまま続けるには他分野のことを検討(教頭)</p>				
9 児 童 の 変 容	(1)主体的に学習に取り組むようになったか。	13	54	33	
	(2)学ぼうとする力(関心意欲態度)はついたか。	40	40	20	
	(3)学ぶ力(課題解決能力)はついたか。		80	20	
	(4)学んだ力(技能・表現・知識理解)はついたか。	20	67	13	
	<p>・関心面での向上を目指したい。(齋藤)</p> <p>・テストを分析したり、ドリルタイムの成果を整理したり、ノート点検をしたりなど、学力の定着を綿密にチェックする機会が持てた。学ぼうとする力を評価するために児童にアンケートをとり、比較すればよかった。(須々田)</p> <p>・児童の変容を見るためにアンケートを実施し、分析した。領域や学習形態にもよるが、よい方向に変容している。(福士)</p> <p>・授業で子どもが沸き立つ場や磨きあいをする場が少なく、指導に工夫が欠けていると思う。(森田)</p> <p>・音読とノート指導には力を入れてきたが、確かな学力に結びついたかは分からない。(野呂)</p> <p>・知識・理解は全国平均を少し下回り、技能表現、科学的思考は上回っている。(工藤)</p> <p>・書く活動(ノート指導含)がよく取り上げられ、日常化していることは、大きな成果と思っている。読む効果・書くことの効果は、極めて大きいはずである。(校長)</p>				
10 来 年 度 の 要 望	1・研究の方法について				
	・個人研究のままでいい。(野呂、須々田)				
	・一つの大きなテーマに迫るための研究内容を考えているのだから、個人研究のままでいいと思う。(福士)				
	・国語部算数部の2つにし、その中で個人が生きるといえるような取り組みはできるのではないか。(教頭)				
	・確かな学力を評価する方法を全体或いは教科毎に決めて比較していったらどうか。(須々田)				
	・研究内容と学力向上を一つにまとめて計画・評価したほうがよい。(須々田)				
	2・公開発表に向けて				
	・本校の取り組みのねらいがわかるように、ポイントを絞った公開、協議が効果的と思うが。(教頭)				
	・少人数学習について公開したらどうか。(工藤)				
	・小集団の形態での授業を学年として公開する必要があると思う。(福士)				
・全員が授業を公開した時、協議会の役割分担はどうなるのだろう。(福士)					
・公開発表前に校内での授業も例年通りやるとすれば、とても日程的にきつくなると思われる。					
公開発表で全員授業するのはいいが、普段の校内研をどうするか考えていかなければならない(森田)					
・全員が授業を公開することは無理ではないか。(須々田)					
・組織がよく、研修に活気がある。だから子どもにも教師にも何か身につき。それをはっきりさせるのが来年度の取り組みとなるのか。(境)					
2・テーマについて					
・サブテーマを設けたらいいのではないか。(須々田)					
・主題と学力を結びつけて考えていくことの難しさを感じる。子どもとともに作り上げていく授業に学力をつけさせる場面や瞬間をどうとりいれていけばいいのかと悩むところである。(小山内)					
3・他					
・全体的に学び合いの意識が薄れてきているように思うのだが、このままでいいのか。(小山内)					
・教師主導による従来の問題解決型の授業からの脱却はどういう授業か、見えなくなってきた。(小山内)					

# 平成15年度児童アンケート（生活自己診断を含む）集計結果（別紙2）

平成15年11月実施

A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

学校・先生・友だち

NO	診断内容	評価	学年別（人）						計	%	学年別（人）						全体（%）	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年			1	2	3	4	5	6	A	B
1	毎日学校に来るのが楽しみです。	A	50	24	18	11	16	17	136	46%								
		B	4	19	20	15	35	24	117	40%								
		C	3	3	7	5	8	6	32	11%								
		D	1	0	3	2	0	3	9	3%								
		計	58	46	48	33	59	50	294									
2	毎日の学校生活に目標を持って取り組んでいる。	A	44	19	19	11	15	19	127	43%								
		B	11	17	19	21	31	25	124	42%								
		C	3	6	9	1	12	6	37	13%								
		D	0	5	1	0	1	0	7	2%								
		計	58	47	48	33	59	50	295									
3	先生は自分のことをよく理解してくれている。	A	50	32	23	17	25	7	154	53%								
		B	6	12	24	13	27	32	114	39%								
		C	2	2	1	1	6	10	22	7%								
		D	0	0	0	1	1	1	3	1%								
		計	58	46	48	32	59	50	293									
4	先生は分かりやすく勉強を教えてくれる。	A	49	37	38	23	31	16	194	66%								
		B	7	9	7	9	25	30	87	30%								
		C	2	0	3	1	3	4	13	4%								
		D	0	0	0	0	0	0	0	0%								
		計	58	46	48	33	59	50	294									
5	先生には何でも相談できる。	A	37	19	11	13	11	11	102	35%								
		B	15	24	21	14	30	18	122	41%								
		C	6	2	15	5	16	14	58	20%								
		D	0	1	1	1	2	7	12	4%								
		計	58	46	48	33	59	50	294									
6	学級の先生のほかにも、気軽に相談できる先生がいる。	A	42	21	16	11	10	8	108	37%								
		B	8	14	17	12	23	14	88	30%								
		C	5	11	10	6	23	20	75	25%								
		D	3	0	5	4	3	8	23	8%								
		計	58	46	48	33	59	50	294									
7	学校には仲のよい友達がいる。	A	56	42	43	31	51	41	264	90%								
		B	1	3	5	1	7	7	24	8%								
		C	1	1	0	0	1	2	5	2%								
		D	0	0	0	1	0	0	1	0%								
		計	58	46	48	33	59	50	294									
8	自分の学級が好きだ。	A	51	23	31	20	29	23	177	60%								
		B	5	19	14	11	25	19	93	32%								
		C	2	4	2	2	4	7	21	7%								
		D	0	0	1	0	1	1	3	1%								
		計	58	46	48	33	59	50	294									

授業・学校行事

9	勉強することは大事な ことだと思う。	A	56	41	46	24	37	33	237	81%		
		B	1	5	2	8	17	14	47	16%		
		C	1	0	0	1	5	2	9	3%		
		D	0	0	0	0	0	1	1	0%		
		計	58	46	48	33	59	50	294			
10	毎日の授業の他に、決め られた時間（またはそれ 以上）勉強している。 （低30分・中45分・高60 分）	A	32	27	22	10	8	13	112	38%		
		B	17	13	21	13	28	19	111	38%		
		C	9	5	5	7	19	14	59	20%		
		D	0	1	0	3	4	4	12	4%		
		計	58	46	48	33	59	50	294			
11	学校の授業はよく分か る。	A	50	25	25	16	18	14	148	50%		
		B	5	19	20	16	34	33	127	43%		
		C	3	2	3	1	6	3	18	6%		
		D	0	0	0	0	1	0	1	1%		
		計	58	46	48	33	59	50	294			
12	国語の授業が好きだ。	A	45	20	18	9	20	14	126	43%		
		B	8	18	21	13	24	24	108	37%		
		C	4	5	7	7	13	9	45	15%		
		D	1	3	2	4	2	3	15	5%		
		計	58	46	48	33	59	50	294			
13	算数の授業が好きだ。	A	51	29	28	22	27	25	182	62%		
		B	2	12	16	6	24	20	80	27%		
		C	1	4	3	2	7	5	22	8%		
		D	2	1	1	3	1	0	8	3%		
		計	56	46	48	33	59	50	292			
14	社会の授業が好きだ。 （3～6学年）	A	/	/	16	14	17	23	70	37%		
		B	/	/	17	14	26	20	77	40%		
		C	/	/	12	2	13	5	32	17%		
		D	/	/	3	3	3	2	11	6%		
		計	0	0	48	33	59	50	190			
15	理科の授業が好きだ。 （3～6学年）	A	/	/	30	13	14	13	70	37%		
		B	/	/	15	9	32	20	76	41%		
		C	/	/	3	8	10	12	33	17%		
		D	/	/	0	3	3	4	10	5%		
		計	0	0	48	33	59	49	189			
16	生活科の授業が好きだ。 （1.2学年）	A	46	37	/	/	/	/	83	81%		
		B	7	9	/	/	/	/	16	16%		
		C	3	0	/	/	/	/	3	3%		
		D	0	0	/	/	/	/	0	0%		
		計	56	46	0	0	0	0	102			
17	総合的な学習の授業が好きだ。 （3～6学年）	A	/	/	34	22	31	19	106	56%		
		B	/	/	11	4	21	23	59	31%		
		C	/	/	3	5	7	4	19	10%		
		D	/	/	0	2	0	4	6	3%		
		計	0	0	48	33	59	50	190			